**校長　　村田　純子**

**平成29年度　学校経営計画及び学校評価**

１　めざす学校像

|  |
| --- |
| **教 育 方 針**  **学 校 理 念**    １．**「鍛える」**　　頑張ることができる心と体  ２．**「見守る」**　　十人十色の個性と成長、集団の力  ３．**「高める」**豊かな教養・国際感覚・人権感覚・他者貢献  **生徒・保護者の満足度が、質の高い日常によって**  **極めて高い学校**  **育てる生徒像**  **● 未来に果敢に挑む、タフでアクティブな人材**  **● 自主の意気高くのびやかな人間**  **「真善美」を校訓に、豊かな人間力をはぐくむ学校** |

２　中期的目標

|  |  |
| --- | --- |
| |  | | --- | | **１．学力を伸ばす**  （１）組織的な授業研究の推進　「考える力の育成」「双方向の授業」  （２）新たな教授方法や教材の開発、外部資源の活用  （３）３年間の学習目標と計画の策定　　「基礎基本の徹底」  （４）学力把握と分析による戦略的仕掛けと全体化  （５）テンミニッツの推進とタブレットの活用  （６）講習、補習の計画的実施と内容の充実  （７）ＩＣＴを活用したわかりやすい授業づくり  （８）学習指導要領や大学入試制度改革に向けた準備と対策  \*H29年度学校経営推進費活用による授業改善  **３年後の寝屋川高校**  **●　センター ５教科７科目型受験者　200名**   * **センター試験　対全国平均得点率10％アップ** * **国公立大学合格　130名**      * **部活動加入率100%、多数近畿大会出場**   **２．21世紀型能力の育成**   * **ＡＬ等考える力を育む授業 全教科で実施**  1. 主体的、能動的学習の確立　　　「Ａ．Ｌの進化」 2. 部活動の積極的推進　　　　　　「個と集団の力」 3. コミュニケーション能力の育成　「プレゼンの機会設定」 4. 生徒主体のＨＲ活動や行事の企画運営　「自主自立」 5. 休まず続けることができる生徒の育成　　「粘り強い精神力」 6. 豊かな人権感覚と国際感覚を育む体験学習の推進　「多様性」 7. 文化活動、読書活動の積極的推進 8. 社会貢献やボランティア活動、各種コンテストの推奨  * **ＰＤＣＡサイクルの定着率　80%** * **授業満足度「強く肯定」　50%** * **自主学習時間　平均２時間以上**  1. 新しい組織の充実　横断化・全体化するためのシステムづくり 2. 質の高い教育実践のためのＲＰＤＣＡサイクルの浸透 3. 個々の教職員の強みを活かした組織運営 4. 目標と成果の共有、当事者意識に基づく協働の推進 5. 職員研修の充実による教師力の強化　「パワーアップ研修」 6. 進路ガイダンス機能や教育相談機能の充実 7. 学校広報と情報発信の充実   **３．学校力のパワーアップ**   * **勉強と部活動の両立　60%　⇒　70%** * **生徒の満足度　「強く肯定」　50%** * **保護者の満足度「強く肯定」　50%**   **●　教職員の学校目標共有と協働　　　70%**   * **職員にとって働き甲斐のある学校　　70%** | |

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

|  |  |
| --- | --- |
| 学校教育自己診断の結果と分析［平成29年12月実施分］ | 学校協議会からの意見 |
| **【 生徒編 】**  ○質問全１５項目のうち「①そう思う、②どちらかと言えばそう思う」と肯定的に回答した生徒が80％を超えた質問は、今年度は９項目（H28は10項目）だった。「部活動に対する意欲」が80%を超えた一方「命の大切さ・人権」「寝屋高生として誇り」に項目が80%を下回ってしまった。  　人学習等について、体育館工事等の都合で当初計画より変更となり系統性をやや書いたところがあったことが考えられる。しかしながら、人権学習はキャリア教育とともに生き方の根幹となることから、３年間を見据えた計画を寝屋川高校としてのカリキュラムにしっかり根付かせる計画が必要である。  ○中でも「入学してよかったと満足」について強く肯定した生徒が56％を（H28　55%）超え、昨年度に引き続き上昇傾向であるが、学年による差異が気になるところである。様々な学習活動や生徒が自己実現できる機会を重視する教育方針の徹底をさらに進める必要がある。  ○強く肯定した生徒が30％以下であった項目は、「教育方針・教育計画の分かりやすさ」(29％)、「健康の保持増進・安全対策」（24％）、「部活動と学習の両立」(25％)である。昨年度は、「健康の保持増進・安全対策」「部活動と学習の両立」がともに23％で、「計画的学習」が29％となっている。  「計画的学習」については、上昇傾向にあり、従前よりの授業改善等の効果が表れつつあると考える。一方、健康教育については様々な取り組みを行っているが、防災教育等安全面等さらなる工夫が必要である。  **【保護者編】**  ○全15項目のうち「①そう思う」と30％以上の保護者に強く肯定してもらえた項目の数が10項目（H28　８項目）。Ｈ26年度は５項目であったことに比べると成果を上げている。  ○最重要事項である「入学させてよかったと満足している」という質問では、強く肯定が55％(H28　58％)でやや減少しているが、肯定ではやや増加している。今後とも今まで積み上げていった改善や教職員一丸となった指導を粘り強く続けていく。、  ○強く肯定が20％未満の項目は「施設設備・学習環境」1項目となった。しかし、「学習指導」については20％と楽観できない結果である。引き続き改善策を講じていく。  ○「保護者の期待や願いに応える」の肯定が92％になるなどありがたい評価をいただいているが、これにおごらず引き続き生徒一人ひとりの自己実現を大切にする取り組みを進めていきたい。  **【教職員編】**  ○「そう思う」「どちらかと言えば」を合わせた肯定的回答が生徒の回答同様「人権教育」低下が顕著だった。このことは重く受け止め早急に改善を図りたい。  ○「指導内容や指導方法の工夫・改善に努めている」という質問に対しては98％が肯定するという高い数字となっている。引き続き授業研究の取り組みを進めていく。 | 【第１回】　日時　平成29年5月26日(金)14:00～15:00　於：校長室  出席者　委員：４名、事務局：校長、教頭、事務部長、首席２名  １．会長の選出　学校協議会実施要項第四条に基づき選出  ２．協議  (1)平成28年度の教育活動について  ・Classiを活用した、２年生全員のタブレット使用(71期生)  ・プロジェクトチームを中心に、タブレットの活用方法を検討中  　　各HR教室配置のプロジェクターと合わせて、授業力の向上を図る  (２)平成29年度の教育計画について  　・「生徒一人ひとりを大切に」が重要課題  　・修学旅行について　→現１年生（72期生）から12月実施、海外ベトナム）、国内（東京方面）  　・府教育庁学校経営推進進費支援（１次審査とプレゼンで府内15校の支援校のに選ばれた）によるHR教室へのプロジェクター設置にを中心とした授業改善について。高い潜在能力を持ちながら自信がなく、自分で限界を作っているタイプの生徒を伸ばしたい  【第２回】日時：平成29年10月27日(金)14:00～15:30　於：校長室  出席者 委員:５名　事務局：校長､教頭､事務部長､首席２名､指導教諭  １、協議  ・修学旅行：71期生のベトナム、東北修学旅行を説明  　・進路より：昨年度からの変更点等説明。３年保護者対象進路説明会を７月から４月に。２年大学説明会、１年テーマ別模擬授業(９月)を、業者をはさまず直接大学と交渉し、より生徒のニーズにかなったものとしたなど。  　・今後の取り組みについて、70期生３年進路実現に向けて、71期生２年タブレット導入、教員の授業力向上に向けて公開研究授業、新テストへの対応、国際交流ウィーク、来年度選抜学力検査　数学をB問題にし基礎基本が身についた生徒を受け入れて鍛える等説明  ・各委員より提言  学校協議会からの意見  ・新校長が新たな取り組みをしていることを実感した。この流れを進めていただきたい。  ・プロジェクターなどのICTをどうクリエーティブに使いこなすか、アイデアと実行力が求められる。  ・将来に対するものの見方、考え方がしっかりしていれば、判断力の向上が図れる。  ・進学面を伸ばすことと人間的な成長を図ることの両立は大変なこと。  ・社会の現場では、次を考えられる人材が求められている。  ・アクティブラーニングで生徒に話し合いをさせればいいというものではない。逆に国語力が低下していないか。  【第３回】日時：平成29年10月27日(金)14:00～15:30  出席者 委員:５名　事務局：校長､教頭､事務部長､首席２名､指導教諭、教員２名  １．授業見学（初任者教員）  ２．協議  ・29年度「学校教育自己診断」について説明  　・進路指導、その他について説明  　学校協議会からの意見  　・学校教育自己診断で、生徒、保護者の「寝屋川高校でよかった」の数値が高いことは喜ばしい  　・行事と勉強の切り替えができている  　・学習指導について、今後の入試改革を考えると、指導法を変える必要あり  　・学力向上の満足度について、保護者の数値が低い原因は？塾・予備校との比較か？今後分析を。  　・国語、英語の授業で、ものの見方を深める工夫を  　・総合的学習にしっかり取り組み、自分自身を語り、書ける生徒の育成が大学進学にもつながる |

３　本年度の取組内容及び自己評価

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 中期的  目標 | 今年度の重点目標 | 具体的な取組計画・内容 | 評価指標 | 自己評価 |
| **学力を伸ばす** | 1. 言語活動、双方向の授業   (2)思考力と実践力の育成   1. 主体性と意欲・自信を育む工夫   (4)理解しやすい授業  (5)家庭学習の定着を目指した組織的な仕組みと仕掛け  (6)「大学入試制度改革」に対する準備と対策 | (1)A.Lの要素を取り込んだ授業づくりを推進し、「学び合いの文化」を学校全体で醸成する。  (2)「オープンクエスチョン」をキーワードに教科で発問の工夫のためのＯＪＴを活発に行う  (3)「スモールステップ」を活用した教材や授業計画の工夫を行い、タイムリーに生徒に「激励と称賛」をおこなう (4)「ＩＣＴの活用」推進  (5)「テンミニッツ」、学習セミナー、外部模試分析会を計画的に実施  １年夏休み、３年ゼロ学期の重要性を学校全体で共有する仕掛け  (6)論述する力、表現する力を鍛える授業研究の推進 | 1. 研究開発室及び学校経営推進費支援によるPT（仮称）がリードした授業研究会を年間３回実施   （４月、９月、11月）   1. 教科会議の充実   月２回実施   1. 学校経営推進費支援によるPT（仮称）主導により、授業相互見学週間を実施し発見シートをまとめ全体化   　・全員実施   1. 利活用率　70%（60%）　と効果的な活用実践の共有 2. 家庭学習時間平均90分以上 3. 学習会の実施   ・授業改善教員研修を２回以上  実施  ・公開授業３回以上実施 | (１)研究授業  5/13(土)　、12/1(金)、2/9(金)　(○)  (２)教科会議  　　各教科で月２回実施（２週間に1回）実施  (3)授業相互見学実施率80%　　　　(△)  (4)ICT機器の活用　利活用率70％　(○)  ・プロジェクタを全HR教室に設置　説明会参加者約40名  (５)家庭学習時間平均  (H29.４)１年110分　２年53分　３年111分  ⇒(H30.2)　２年　97分　　　　　(○)  (６)入試制度改革に関する学習会　２月13日(火)  実施(テーマは以下の通り)  ①寝屋高生の学力はいかなるものなのか  　各教科の基礎力はあるの？  　②寝屋高生の学習スタイルはいかなるものなのか　思考力・主体性はあるの？  ・公開授業5･12・2月実施　　　(○) |
| **２１世紀型能力の育成** | (1)基本的人間力の鍛錬  (2)文化的・芸術的活動や読書活動の推進    (3)コミュニケーション能力の育成  (4)社会貢献・ボランティア活動の積極的参加推奨  (5)様々な体験活動を通じた人権感覚と国際感覚の涵養 | (1)挨拶、時間、清掃、感謝、貢献について日常的に全職員で指導に当たる。  (2)２年生の芸術鑑賞、３年生の文楽鑑賞のほかに授業や部活動を通してコンテストに参加を積極的に呼び掛け、機会を多く設定する。文芸Ｇが中心となった読書マラソンや各種コンテストにチャレンジを呼び掛ける  (3) 学校経営推進費支援機器を活用しプレゼンや発表の機会を校内外で実施  (4)寝屋川市や市内中学校、福祉施設など外部との連携交流推進  (5)２年人権探究学習の定着と企画交流室が中心となった組織的な国際交流活動の充実　　人権週間と国際交流ウィークを新設 | ※（）内はH28年度  (1)全職員で実施  (2)全員対象の読書コンクール  　読書マラソン達成者10人(6)  (3)修学旅行プレゼン、人権探究学習、英語コンテスト実施  (4)寝屋川市や小・中学校との様々な連携  ・様々な形で全員が実施  (5)人権教育の評価  肯定88%（85%） | (1)全職員で指導実施　　　　　　　　　(○)  (2)校内学芸コンクールの実施  　代表が大阪府コンクールで「佳作」  　読書マラソン　達成者　　12人　　　　　(○)  (3)・修学旅行報告プレゼンをベトナム領事館で英語・日本語で実施  　　・１・２年生英語スピーチコンテスト全員参加。２年生はプレゼン形式で実施。人権探究学習テーマ別で実施　　　　　　　(○)  (4)・寝屋川市若者会議(参加65人中生徒18人教員2人参加)、・小学生向け理科教室、生徒がリーダー役になり実施。・スポーツテスト交流は、日程が合わず未実施。次年度以降形式等工夫し実施することを確認。・その他清掃活動や、部単位の活動等で多数実施　　　　　　　　　　(○)  (5)・肯定76％　　　　　　　　　　　　　(△) |
| **学校力のパワーアップ** | (1)目標や成果の共有と協働に努め、職員の一体化をはかる  (2)ＰＤＣＡサイクルによる改善志向の定着    (3)パワーアップ研修の充実  (4)教育相談機能の充実  (5)学校広報と情報発信機能の充実  (6)校務処理システムの整備と充実 | 1. 前期後期初めの校長ビジョンの提示個人個人のアクションプランを提出 2. 自己申告票や授業振り返りシートの組織的、時期定な一斉活用 3. 年間４つのテーマで実施   ・人権教育  ・授業研究  ・生徒指導、教育相談  ・部活動指導   1. 新たなポスト（担当総括）の活用と組織的な取り組みと対応 2. 学校案内のリニューアル   学校目標の上方修正や生徒事情の変化を反映   1. 教務関係だけなく一元化に | ※（）内はH28年度  (1)職員自己診断結果  　　　肯定　75%（71%）  (2)職員自己診断結果  　　　肯定　70%（64%）  (3)実施回数と振り返り  　・５回以上  (4)職員自己診断結果  肯定　85%（84%）  　生徒自己診断結果  　　　肯定　80%　(77%)  (5)生徒会など生徒を活用し、リニューアルする  (6)担任業務の簡素化、合理化  ・担任時間外10％減 | (1)  　肯定　74％　　　　　　　　　　　　　(△)  (2)  　肯定　67％　　　　　　　　　　　　　(△)  (3)・授業研究３回、新しい入試制度にかかる勉強会、  　　教育相談にかかる研修２回、生徒の模試結果分析にかかる研究会学年ごと複数回等　　(◎)  　(4)  　　職員　肯定81％　　　　　　　　　(△)  　　生徒　肯定75％　　　　　　　　　(△)  (5)学校案内は、目標や生徒事情の変化に対応したが、生徒を活用していない。　　　　(△)  （6）担任の時間外　７％減　　（△） |